
過ぎてゆく日々を早く感じるのは、君がいるから。

貴平郁歌

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

過ぎてゆく日々を早く感じるのは、君がいるから。

【ZPDF】

Z0470F

【作者名】

貴平郁歌

【あらすじ】

これは、ある方からお題を借りて、それにそつて書いていくつもりです。CPは新規のみにさせていただきます。

その1・灰原 哀

「んでもどりうねーんだよ、灰原。」

工藤君にそう言われるのも、無理は無いと思つ。

一ヶ月前に、黒羽君、服部君、工藤君、警視庁のひとたちに協力してもらつて、

組織を潰すことが出来た。

ジンは最後の最後に自殺、ベルモットやキール、コルンやキャントンは建物の下敷きに。

でも、アポトキシン4869の「トーター」、資料は残つてた。

といつても、黒羽君が届けてくれたものだけど。

一週間前に、工藤君は『工藤新一』に戻ることを決心してくれた。

江戸川コナンの友達やもちろん蘭さんにも別れをつげたらしい。

一週間前、工藤君にアポトキシン4869の解毒剤を投与した。

もちろん、結果は成功、彼は17歳の身体に戻れた。

で、私に早く戻れ、といいはじめたのが3日前。

「その悪い組織の中にいたのが私なのよ。

「悪いのは組織だ。灰原じゃない。」

「宮野志保の事、私は嫌いなの。何十人もの人を殺めた毒薬を作っていたのだから。」

「…………なんで。」

「ええ。」

「なあ灰原、本当にマジもどらねーつもりかよ。」

それにね、宮野志保には何が残っているの？誰か私の帰りを待つてくれている人はいる？

ダメなのよね、私。こんな明るいことひで生活していたからかしら？

あの暗闇に落ちるのは……嫌なの。
だから、宮野志保には戻らない。」

「なあ、俺が宮野志保の帰りを待つてんじゃダメか？」

「え？」

「俺は灰原が宮野志保に戻るのを待つてるし、それに、明美さんだつてきつと

宮野志保を待つてると思つ。」

「工藤くんと……お姉ちゃん、が？
……お姉ちゃんは理解^{わか}るけど、工藤君は
早く蘭さんと……。」

そこまで言つて、私は口を閉じた。

なぜなら、蘭さんは去年の6月、結婚したのだ。

工藤君の帰りを……待てなくて。

相手は、蘭の通っていた大学の同級生のひと。

江戸川コナンが別れを告げた・・・後に。

「『めんなさい。私のせいよね。』

「それは・・・もう・・・・・いい。

灰原の気持ちは、分かったから・・・・・。
でもこれだけは、灰原哀が富野志保になつても変わらない。
灰原哀を、愛しているから。」

これからもお世話にならうね、灰原哀、に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0470f/>

過ぎてゆく日々を早く感じるのは、君がいるから。

2010年10月21日20時43分発行